

読売

教育ネットワーク

社会はまるごと学校——
すべての大人が先生です



ビブリオバトルの魅力などについて語る(左から)諏佐さん、宮川さん、竹添さん、兼松さん、阿部さん(6月17日、読売新聞東京本社で／詳細は2～3面)

巻頭特集

本と出会い 人とつながる

第4回 全国高校ビブリオバトル 開幕直前座談会 2・3

「戦争の恐怖、悲しみ伝えたい」

山口・梅光学院の生徒が作った映画が劇場公開 4・5

学校×企業

奈良・西大和学園中×積水ハウスなど
第一学院高校×日本レコード協会 6

お知らせ・短信 7 神奈川・片瀬江ノ島東浜に「釘のない海の家」オープン 8
リレーエッセー 米 フランクリン&マーシャル・カレッジ「機会はコンフォート・ゾーンの外に」 9

2017.6

Vol.30

参加高校生
募集！ブロック、都府県大会 7月から
決勝大会は来年1月

ブロック大会は活字文化推進会議が主催、読売新聞社が主管。7月23日に県立広島大学サテライトキャンパスで行われる中国大会からスタートし、計9大会が開かれる。ブロック大会の出場者は各校1人。校内で予選会を開催するか、学校長推薦を受けて申し込む。発表者決定が遅くなる場合、学校名だけの仮エントリーも可。

【参加申し込み】
下記の必要事項を明記し、メールまたはFAXでお申し込み下さい。
①参加希望のブロック大会名②学校名、学年③代表生徒名(ふりがな)④紹介する本、著者、出版社⑤担当教諭(司書)⑥電話番号 ※一般の観戦者は住所、氏名、年齢、職業、連絡先
【宛先】
読売新聞東京本社 活字文化推進会議事務局
メール: bib@yomiuri.com FAX: 03-3217-4309
【問い合わせ】
同事務局☎03-3217-4302(平日10:00～17:00)

都府県大会は都府県教育委員会、高等学校文化連盟図書専門部、地元大学などが主催する。昨年度は25の都府県で行われたが、今年度から新たに山形、滋賀、京都、兵庫、鳥取でも大会が始まり、30都府県で開催が決まっている。

決勝大会は来年1月28日に東京都新宿区の早稲田大学で開催される。ブロック大会か都府県大会で、チャンプ本を獲得した高校生に出場権が与えられ、引率教諭と共に招待される。

■第4回全国高校ビブリオ開催日程

大会名	日程	会場
北海道	9月17日	北海道商科大学（札幌市）
東北	8月20日	東北学院大学（仙台市）
関東・甲信越	9月10日	成蹊大学（東京都武蔵野市）
東海	10月9日	椋山女学園大学（名古屋市中）
北陸	10月1日	富山大学（富山市）
関西	11月5日	関西大学梅田キャンパス（大阪市）
中国	7月23日	県立広島大学サテライトキャンパス（広島市中）
四国	7月29日	松山東雲女子大学（松山市）
九州・山口	10月29日	西南学院大学（福岡市）

秋田県(11月3日)	山形県(11月23日)	福島県(11月11日)
茨城県(12月13日)	栃木県(12月10日)	群馬県(10月28日)
埼玉県(11月19日)	東京都(10月29日)	神奈川県(7月23日)
山梨県(10月8日)	静岡県(9月30日)	岐阜県(11月4日)
三重県(12月10日)	福井県(11月12日)	滋賀県(8月27日)
京都府(9月24日)	大阪府(12月16日)	兵庫県(11月18日)
奈良県(10月29日)	和歌山県(12月10日)	鳥取県(12月17日)
岡山県(11月4日)	徳島県(10月22日)	香川県(11月18日)
大分県(11月5日)	長崎県(11月17日)	熊本県(8月20日)
宮崎県(10月上旬)	鹿児島県(8月19日)	沖縄県(11月8日)

決勝大会 2018年1月28日 早稲田大学(東京都新宿区)

ビブリオバトル 各人がお気に入りの本を持ち寄り、レジュメなどは使わず、順番に5分間、本の魅力を語る。その後、2～3分間、聴衆からの質問に答え、全員が発表し終わったら、多数決で一番読みたくなった本(チャンプ本)を決める。立命館大学情報理工学部教授の谷口忠大さんが考案者。活字文化推進会議は高校生大会のほか、大学生大会、中学生大会も開催している。今年度、大学生の決勝大会は12月17日、東京都千代田区のよみうり大手町ホールで行われる。中学生大会は来年3月下旬、都内で開催予定。
【主催】活字文化推進会議 【後援】全国学校図書館協議会、全国高等学校文化連盟、ビブリオバトル普及委員会、文部科学省

諏佐 読んだことがある本の紹介を聞いていて、自分の受け止め方と全く違っていることが分かった時です。同じ本なのに、こうも感想が違うのかと新鮮な驚きがありました。
竹添 ブロック大会、決勝大会が終わった後の交流会が楽しかったです。みんな初対面にもかかわらず、すごく盛り上がり、ビブリオバトルのキャッチフレーズ「本を通して人を知る」はこのことかと実感しました。
兼松 同感ですね。ビブリオバトルで自分の好きなこと、考えていたことをさらけだし、本気で語り合った後だから余計に親近感がわくのかな。

感激しました。
兼松 私が紹介した『ぼくらはみんな生きている』の著者の坪倉優介さんが四国大会の記事を読んだ、「紹介してくれてありがとう。良かったら会いに来ませんか」と学校に連絡をくれたんです。まさか著者に会えると思っていたんです。
——高校時代、ビブリオバトルをやってきた気づいたり、心がけていたりしたことはありませんか。
竹添 私は3年連続で大会に参加しました。試行錯誤を続けるうちに、「この本が好きだ」を強調しすぎると、初見の人たちには伝わらないと気づきました。プレゼン

手な高校生もいるでしょうが、自分の中では確実に名作になっている本の力を信じてみてください。
阿部 ありのままの自分を出して発表する方がいいと思う。特に個性が強い人は。
宮川 自分は放送部に入っている、日頃から先輩に言われているのが「聴く人を出だしで引きつけなければいけない」。ビブリオバトルでも冒頭部分に気を付けました。もう一つは、迷ったらやってみようということ。運良く決勝大会に行くことができたなら全国に友達ができます。
兼松 チャンプ本になったらうれしいけれど、ならなくても、愛読書を語る5分間は楽しいし、いろんな本に出会えます。



兼松綾那 (あやな)さん

第2回決勝大会ゲスト特別賞
徳島県立脇田高校卒、広島大学1年

著者から連絡 感激



宮川悠之介 さん

第3回決勝大会準優勝
福井県立武生東高校3年

宮川 僕はゲストだった作家の森絵都さんから賞状をもらったことです。偶然、大会数日前に森さんの小説を読み終えたところだったんです。「森さんが目の前にいる！」という感じでした。
阿部 私の時は、ゲストの「笑い飯」哲夫さんがデイスカッションタイムで、くだけた質問をしてくれて雰囲気盛り上げてくれました。哲夫さんの存在はありがたかったです。
——宮川さん、兼松さんには、紹介した本の著者から大会後に連絡があったようですね。
宮川 『手紙屋』僕の就職活動を変えた十通の手紙の喜多川泰さんから手紙と本をいただきました。「すてきな本との出会いがたくさんある充実の人生を送っていただく下さい」と書かれていて、

——皆さん、ステージに上がると楽しそうに発表していました。
諏佐 あとでビデオを見て、ニコしながら話している様子に驚きました。愛読書の魅力を知ってもらえるかもしれないという、うれしさからでしょうか。
阿部 普段、物静かな鉄道ファンが電車について語るとなると、すごく能弁になります。それと同じではないでしょうか。
——参加する高校生にアドバイスはありますか。
諏佐 緊張して頭の中が真っ白になったら、いっぺん心を静めるために「皆さんはどう思いますか」と聴衆に呼びかけて、ひと息入れるのもいいかもしれません。
兼松 私は本をスタンドに置かず、持って話していました。本の神様がついてくれているようで落ち着きました。
竹添 大勢の前で話するのが苦



竹添ぞら さん

第2、3回九州・山口大会優勝
福岡大学付属大濠高校卒、筑波大学1年

全国に友達できる



諏佐(さす) 僚一 さん

第3回決勝大会優秀賞
東京都立板橋高校3年

自分さけ出した



阿部希望 (のぞみ)さん

第2回決勝大会優勝
大分県立芸術緑丘高校卒、多摩美術大学1年

高校生のお薦め本ナンバーワンを決める全国高等学校ビブリオバトル。第4回大会の開幕の前に、活字文化推進会議では第2回優勝者の阿部希望さん、第3回準優勝者の宮川悠之介さんら過去の大会入賞者5人に東京に集まってもらい、ビブリオバトルの魅力を語り合ってもらった。「好きな本について本気で語りあえる場」「自分をさらけ出せる貴重な時間」と、思い思いの意見が飛び出した。(司会は、和田浩二・読売新聞専門委員、本文敬称略)

本と出会い
人とつながる第4回 全国高校ビブリオバトル
開幕直前座談会

山口・梅光学院の生徒がキャスト、スタッフを務めた映画が劇場公開へ

戦争の恐怖、悲しみ伝えたい

山口県下関市の私立梅光学院中学・高校の生徒がキャストやスタッフを務め、同校を舞台に撮影されたミュージカル映画「隣人のゆくえ ―あの夏の歌声―」が、8月に東京、横浜など全国のミニシアターで上映されることになった。

コメント「曲は一人一人の出演者のテーマソングになっていて、その人の雰囲気とかを考えて作りました。2回目の『はじまりのふたこと』では空襲写真も映されるので、恐怖とか悲しみなども考えながら作曲しました。作曲はこれからも続けていきたい」

正司怜美 さん(高3)
主演・野村カンナ役／作曲
「素の演技」で主役の野村カナナを務めた上、曲作りにも才能を発揮。「はじまりのふたこと」など3作を作曲。「詩からメロディーを作ることができ、(こちらは)メロディーから詩も作ることができた」と柴口監督も絶賛。

コメント「全国公開はすごすぎて、まだ実感がわきません。自分たち中高生が一から音楽を作ったり、振り付けも行ったミュージカル映画です。同世代の人たちには戦争のことを考えるきっかけとなってもらえればと思います」

竹内義晶 さん(高3) 助監督／作曲
助監督としてメンバーのスケジュール調整に奔走。劇中歌も、「70歳になったら」と「エルフ」の2曲を作った。

岡本ゆうか さん(高1) 丸山小梅役
野村カンナが歌劇部室に招待された時から、彼女を疎む役柄を演じる。

市井の人の思いを現代に

映画のテーマは太平洋戦争中の下関空襲。米軍機による市中心部への焼夷弾投下で300人以上の犠牲者が出た。監督・脚本の柴口勲さん(49)は下関市在住の会社員で、動画の撮影や編集が趣味。母校の中学校で学校ドキュメントなどの制作に当たっていた2012年、下関空襲直後の惨状をとらえた写真の存在を知り、この空襲をテーマにした映画を作りたいと思うようになった。

仲間と作り上げる意義

ミュージカル映画の重要な部分を占める劇中歌づくりで才能を発揮し、主演も務めた正司怜美さん(17)は、「戦争の恐怖や悲しみを考えながら作曲し、演じ、歌い出した」と振り返り、「特に同世代の人に見てもらいたいと思います」と劇場公開に期待を込める。

上垣内愛佳さん(18)は、空襲直後の写真を撮影したのが曾祖父の上垣内茂夫さん(当時の写真店

主)であったことが応募後に分かり、撮影を担当することになった。

映画完成から1年後の昨年11月、東京都多摩市で開催されたコンテスト「TAMANEWAVE」で、114の応募作品からコンペティション部門参加の5作品に選ばれた。映画の配給・宣伝をしている細谷隆広さん(61)の目に留まり、劇場での公開が決まった。「みずみずしい十代の少女たちの歌と踊りに心を打たれた。多くの人に見てもらいたい」と細谷さん。

梅光学院中学・高等学校の島田清校長は、「柴口さんの指導のおかげもあり、教師主導ではなく、生徒自身の自由な発想を引き出す教育をこれまで以上に推し進めている。生徒一人ひとりの自信も芽生えつつあると感じる」と話している。

隣人のゆくえ ―あの夏の歌声―

両親が離婚した日、高校生・野村カンナ(正司怜美)は忘れ物を取りに学校に戻る。夏休み中で生徒はいないはずが、立ち入り禁止の旧校舎から歌声が聞こえた。歌劇部の生徒たちが練習中だった。部室に招かれたカンナは「夏の間だけ一人の観客になって」と頼まれるが、部員の一人、丸山小梅(岡本ゆうか)からは疎まれる。その理由は……(77分)

新宿K's cinema(8月12日～)など、全国で公開
特別鑑賞券 1200円
公式サイト <https://rinjinyukue.wixsite.com/rinjinoyukue>

STORY

※記者会見以外の写真は柴口さん提供

映画のラストシーンでは、生徒たちと重ね合わせるように上垣内茂夫さん撮影の写真が登場する

上垣内愛佳 さん(高3) 撮影
曾祖父が下関空襲の惨状を撮影した上垣内茂夫さんだと応募後にわかり、撮影を担当することに。

効果ある断熱材は？

温暖化対策考える実験

「読売教育ネットワーク」に参加している企業による出前授業が、6月6日、奈良県河合町の西大和学園中学校で行われた。

授業に参加したのは、野村ホールディングス、第一生命保険、近畿日本ツーリスト、関西電力、日立製作所、積水ハウスの6社の社員で、企業の研究活動について話したり、生徒とともに実験したりした。2年生221人が、希望する企業の教室に分かれ、電気の知識や、情報活用の秘訣などの講義に聴き入った。

× 積水ハウスなど

奈良・西大和学園中

積水ハウスの授業では、同社総合住宅研究所の出端祐輔主任が講師を務め、「地球温暖化を止めるために、最も効果のある断熱材はどれか、実験しよう」と呼びかけた。

生徒らは6班に分かれ、発泡スチロールの容器に6種類の断熱材をセットし、ドライアイスを入れて表面温度



断熱材の効果について実験する西大和中の生徒たち

を測った。ガラスは計測不能になる水点下60度を下回ったが、鉄と発泡スチロールを重ねた容器は、室温とほぼ同じ24・5度。赤外線カメラで温度分布をスクリーンに映し出し、断熱効果を確かめた。ガラスは2重にすると断熱効果が高まることも確認した。

女子生徒の1人は「普段の授業とは違う実験で楽しかった。離れた所から計測できる『放射温度計』や放射赤外線カメラを使うのは初めてで、新鮮でした」と目を輝かせていた。



音のバランスの違いを知るため調整卓の操作を体験する生徒たち

迫力満点の音楽スタジオ体験

音楽が生まれる現場を 体感しよう！

日本レコード協会による音楽スタジオ体験授業が5月29日、東京都文京区のキング関口台スタジオで行なわれた。授業を受けたのは、広域通信・単位制高等学校の第一学院高校の生徒。1年から3年までそれぞれ二人ずつの計6人が同スタジオを訪れた。

この授業は、プロのミュージシャンや歌手が実際に使用するレコーディングスタジオ

を見学しながら、音楽が生まれる工程を学んでもらうと行なわれている。日本レコード協会広報グループの松下結香子さんが、1年間にデビューする新人歌手・グループは約300組あると説明。「CDやスマホなどで簡単に聞ける曲は、多くの人の手を経て時間をかけて制作されている。ルールにのっとった形で曲を入手して楽しむことが音楽創造のサイクルを作っていることを知ってほしい」と話した。

授業は録音した音を調整するコントロールルームと演奏者や歌手が実際に録音を行なうプレイルームを使って行なわれた。

キング関口台スタジオの高橋邦明管理統括部長が「皆さんキングレコードをご存知ですか。設立されて87年ほどになります。このスタジオは1996年に作られたものです」と説明。録音用マイクが設置されているプレイルームに入ると、音響を考えて部屋の構造が全ての壁が平行にならないように作られていたり、それぞれ音を反射させる面と

吸収する面があったりするなど解説した。生徒たちは、ガラス窓で仕切られたコントロールルームからのエンジニアの指示に従い、実際にマイクを使って本の朗読を体験。録音された全員の声をエンジニアが編集したものを聴くと「こんな声だったっけ」などと驚いていた。

コントロールルームに戻ると実際に録音した曲を聴きやすいように編集する調整卓のボリュームを動かして、伴奏と歌の音量バランスがどう変わるかなどを体験した。また持参したグリーンボーイズやHey/ Say/ JUMPといったお気に入りのCDをコントロールルームのスピーカーで視聴し、迫力に満ちた音を楽しむなどレコーディングをしている気分を味わった。

生徒たちは、「CDができるまでには多くの時間がかかっているのが分かった」「普段見られない所を見ることができて楽しかった」などと感想を寄せた。

第一学院高校

× 日本レコード協会

読売教育 3 賞

参加者・作品募集



■ 高円宮杯 第69回 全日本中学校英語弁論大会

<http://www.jnsafund.org/>

国際性豊かな人材の育成を目的に掲げた伝統ある大会です。自作の英語スピーチを披露して内容を競い合います。

- 【内容】論題は自由、制限時間は5分。地方大会は9～10月（各都道府県）、決勝予選大会は11月22、23日（東京・赤坂）、決勝大会は11月24日（東京・有楽町）。参加資格など詳細はウェブサイト参照
- 【表彰】1位：高円宮杯、2～7位：読売新聞社杯ほか
- 【副賞】三菱商事賞：上位3人、日本IBM賞：上位3校、ワールド・ファミリー賞：若干名ほか
- 【問い合わせ】事務局 ☎03・3217・8393

主催：読売新聞社、日本学生協会基金
後援：外務省、文部科学省、NHKほか／協賛：日本IBM、三菱商事、べんてる、ワールド・ファミリー、国際ソロプチミスト東京・東、ECC

■ 第67回 全国小・中学校作文コンクール

<https://info.yomiuri.co.jp/contest/edu/sakubun.html>

国内の小・中学校と海外の日本人学校の児童、生徒を対象に作文を募集します。

- 【部門】小学校低学年、同高学年、中学校
- 【賞】文部科学大臣賞ほか。11月下旬、読売新聞で発表
- 【応募規定】400字詰め原稿用紙に自筆。テーマは自由、枚数制限なし。入賞作品の著作権は主催者に帰属（作品返却なし）
- 【応募先】読売新聞本社 総支局へ。9月13日（水）必着
- 【問い合わせ】読売新聞東京本社事業開発部 ☎03・3216・8606

主催：読売新聞社／後援：文部科学省ほか
協賛：JR東日本、JR東海、JR西日本 協力：三菱鉛筆

■ 第61回 日本学生科学賞

<http://event.yomiuri.co.jp/jssa/>

中学・高校生のための科学自由研究コンテスト。個人でも共同でも応募できます。

- 【募集分野】物理、化学、生物、地学、広領域、情報・技術
- 【応募方法】各地方審査（9～10月）の詳細はウェブサイト参照。情報・技術分野は9月1日（金）～10月25日（水）に事務局へ直接応募
- 【審査・発表】地方審査を通過した作品は中央審査へ。12月下旬、読売新聞で発表
- 【賞】内閣総理大臣賞（副賞50万円）ほか。参加作品の中から、米国で開かれる「国際学生科学技術フェア」に派遣
- 【問い合わせ】事務局 ☎03・3216・8606

主催：読売新聞社／共催：全日本科学教育振興委員会ほか
後援：内閣府、文部科学省、環境省、特許庁 協賛：旭化成

東南アジア小論文コンテスト 作品募集

今年30周年を迎えた神田外語大学（千葉県）が「第1回 高校生東南アジア小論文コンテスト」を募集しています。公式サイトに掲載された3部門（タイ、インドネシア、ベトナム）についての記事を読み、自分の考えや思いを日本語で1000字から1200字以内にまとめてください。各部門を総合した最優秀賞1点と優秀賞2点の計3人の高校生を、2018年3月下旬、タイの見学旅行に招待します。

- 【対象】全国の高校在学中の生徒
- 【応募】応募票、原稿用紙をコンテスト公式サイトからダウンロードし、インターネットあるいは郵送で応募。1部門1点で、複数部門での応募も可能。
- 【締め切り】9月13日（水）
- 【入賞発表】10月中旬に公式サイトで発表
- 【表彰式】10月28日（土）神田外語大学で開催
- 【問い合わせ】神田外語大学「東南アジア小論文コンテスト」事務局、担当横田 ☎03・3258・5861
詳細は公式サイトを参照
<https://www.kandagaigo.ac.jp/essaycontest/>

News

帰国生向け学校説明会

参加者募集

海外子女教育振興財団は、大阪、名古屋、東京で「帰国生のための学校説明会・相談会」を開催します。すでに帰国済み、もしくは一時帰国中の小学生から高校生の帰国子女とその保護者が対象で、小学校から大学までの主な帰国生受入校や教育委員会の担当者が、各校の指導方針・授業・課外活動などの特色や選考方法・時期・応募資格などについて説明するほか、具体的な質問や相談にも応じます。

参加費無料、要事前申し込み。

- 大阪 7月27日（木）12:00～15:30
大阪国際会議場 グランキューブ大阪（大阪市北区）
- 名古屋 7月28日（金）12:00～15:30
愛知県産業労働センター ウィンクあいち（名古屋市中村区）
- 東京 8月1日（火）12:00～16:00
東京都立産業貿易センター台東館（東京都台東区）
- 【申し込み】同財団のウェブサイトよりお申し込みください。
http://www.joes.or.jp/kojin/kokunai_setsumeikai
- 【問い合わせ】海外子女教育振興財団 事業部情報サービスチーム ☎03・4330・1349

「こどもの詩」50年 作品集が好評

読売新聞くらし面「こどもの詩」コーナーが今年50周年を迎えたのを機に出版された作品集『ことばのしっぽ「こどもの詩」50周年精選集』が好評です。

「こどもの詩」は1967年5月にスタート。子どもならではの視点や大人の意表をつく描写が、読者の心を捉えてきました。精選集では約200編を収録、「お気に入りの／ふくがあります／大人になっても／きられるように／のぼしておきました」（「お気に入り」2015年）など、はじけるような感性に満ちています。歴代選者は日本を代表する詩人で、初代は山本和夫さん。次の川崎洋さん以降、短評がつくようになり、子どもと一緒に楽しんでいるような川崎さん、哲学的な雰囲気のある長田弘さん、優しさとユーモアあふれる現在の平田俊子さんと、選者の個性も味わえます。



中央公論新社、読売新聞生活部監修／1400円（税抜き）

「釘のない海の家」オープン

安全で環境にやさしく

神奈川・片瀬江ノ島東浜

ウェブサイトで動画をご覧いただけます → <http://kyokuyomiuri.co.jp/rwnews/contents/post-597.php>



解体しても危険な釘を砂浜に残さない「釘のない海の家」が神奈川県藤沢市の片瀬江ノ島東浜に建てられ、7月1日にオープンした。子どもや若者に海に関心を向けてもらおうと、日本財団が2015年から進める「海と日本PROJECT」のアクションプランの一つで、NPO法人「海さくら」（本部・東京都目黒区）のアイデアが実現した。

きれいな海、取り戻したい

かつて生息していたタツノオトシゴを再び見ることができるような湘南の海を取り戻したいと、「海さくら」は12年間にわたって同浜で毎月ごみを拾う活動を続けている。3年前、アクションプラン「海をきれいにしよう」のチームリーダーに指名された理事長の古沢純一郎さん（41）さんは、海の家を解体する時に出る大量の釘に心を痛め、安全で環境にやさしい海の家を建てたいと考えた。

「海岸から釘をなくしたい。釘を使わない海の家ができないだろうか」大学の同期生だった「長谷萬カスタムホームズ」（東京都江東区）の長谷川泰治副社長（42）に相談を持ちかけたところ、慶應義塾大

木ならではの付加価値

学的小林博人教授（デザイン学）を紹介された。小林教授は、釘をいっさい使わず、加工した国産間伐材などの合板を組み合わせて構造体を作る独自の工法を研究開発している。その後、日本財団の後押しもあり、共同プロジェクトとして取り組むことが決まった。

長谷川さんと小林教授は、ぬくもりや環境面だけではない木ならではの付加価値に注目してきた。たどりついたのが、一般の人でも加工や組み立てに参加できるシステムの構築だ。東日本大震災の被災地では、地域の人たちの手で集会場などを作る計画を支援、自分たちで作ることが建築物への愛着を育み、人と人とのつながりをも強めることを実感した。

自然環境を自分の問題として

海開きを控えた6月10日、施工スタッフやNPOメンバー、ごみ拾いに参加した親子らが集合。スタイリッシュで涼しげなドーム型の「釘のない海の家」は一気に組み上げられていった。

24日には、ドーム内にライフセーバーの待機区画などを組み立てる作業が子どもたちも参加して行われた。

長男の湘君（7）と参加した藤沢市の三橋圭子さん（48）は、「海の家」の解体直後は釘が散乱し、子どもをはだして散歩させることができなかった。釘がなくてこまでしつかりしたものができると驚きました」とうれしそうに話してくれた。

古沢さんは完成した海の家を前に、「天幕に描かれたタツノオトシゴなどは小学生たちが描いてくれた。皆さんの力で完成できた釘のない海の家から、自然環境を自分の問題としてとらえてもらえればうれしいですね」と感慨深げに語った。

- ① 砂浜を歩くと、突き出たままの錆びた釘があらこちらに
- ② 合板の木片とホワイトオークのくさびが釘のかわりで、解体と再構築が可能。国産スギの間伐材を貼り合わせて圧縮した合板は強度も高い
- ③ 子どもたちも組み立てに参加。簡単にくさびを打ち込むことができた
- ④ 片瀬江ノ島東浜に姿を現した「釘のない海の家」。後方は江ノ島
- ⑤ 子供たちが天幕に描いたタツノオトシゴ





上級生と写真に納まる片木さん(左)=本人提供

フランクリン&マーシャル・カレッジ

1787年創立の米最古の高等教育機関のひとつ。私立のリベラル・アーツ・カレッジ。キャンパスは米ペンシルバニア州ランカスターにあり、学生数は2300人ほど。



生の6割近くが、学生団体に所属している。私が所属する団体には、共通の価値観や目標を持ちつつ、意見や考え方の違いを共有する環境があ

機会。この漠然とした概念を表現する言葉はどこにでもあるようで、自分のものとして活かしていくのは難しい。ここフランクリン&マーシャルカレッジ(F&M)の環境は、学生として学校とのつながりを大切にしながら、学業はもちろんのこと様々な活動において、常に私たちに探究心と冒険心を与え、それぞれの目標に向かって突き進めるように整えられている。日々私は自分のコンフォート・ゾーンから否応なく引き摺り出され、新しい「機会」に向き合うことを求められている。

大学に入って最初の「機会」

は社会学の授業だった。恐る恐る踏み入れた大学最初の授業がこんなにも刺激的であるとは思わなかった。クラス全体で人種、階級、性別、権力などテーマを徹底的に議論した経験はかけがえの無いものであったし、その経験はその後の私の課外活動に大きな影響を与えることになった。現在は、学内のダイバーシティ・カウンスル(多様性評議会)のメンバー、インターナショナル・クラブの副会長、そして海外からの留学生のメンター(指導役)として(様々な国籍の)後輩たちをサポートしている。社会学の授業を受講していなければ出会うことのなかった「機会」であろう。

「F&Mの学生は忙しくない時がない」とよく言われる。2年生になった今このことを再認識している。次から次へと目の前に現れる様々な「機会」を活かすべく刺激してくれる学校そして仲間

にたいへん満足し感謝している。自分にとって異質な環境に自ら飛び込むことは決して簡単なことではない。だが、F&Mでは自分がより成長できるような機会に出会うことができる。少しの勇気を出して得られるものはかけがえのないものだ。(会報編集部抄訳 The Japan News 2016年12月4日)

海外留学を目指す高校生に進学支援を行っているNPO法人「留学フェロウシップ」のメンバーが、海外のキャンパスライフをリレー連載します。留学フェロウシップの詳細はウェブサイト(<http://ryu-fellow.org>)へ。

海外で学ぶ・リレーエッセー ③〇 米フランクリン&マーシャル・カレッジ 「機会」はコンフォート・ゾーンの外に

国際基督教大学高校(東京都)卒、フランクリン&マーシャル・カレッジ2年(執筆時)

片木 美紗 さん



る。米大統領選直後には、キャンパス内の人種的緊張について友人と激しく話し合ったこともあった。専攻分野の判断、単位の取得計画、授業の予習復習、留学のアドバイスまでサポートしてもらえ、尊敬できる先輩や仲間に出会えたことに大いに感謝している。